

# 10月、完全週休2日へ移行

## 第一貨物 来年度 年間休日は123日

第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）は10月から、完全週休2日制に移行する。平日を含む週2日、毎週休みを取れる体制にすることで、採用面での競争力を強化するのが目的。休日増加により、2021年度の年間休日数は123日と金融・保険業や情報通信業と同水準となる。

（矢田 健一郎）

と給与水準向上、さらに社員の純増へ好循環につながる（米田社長）。

### 従

来も大型連休、お盆、年末年始はまとまった休日を取得できたが、土曜日については集荷・配達を希望する荷主への対応のため営業を行い、交代制の隔週休みのような形で月により2〜3日出勤する体制を採っている。

社員数は20年3月末時点で4207人だが、ドライバーをはじめとした人手不足を背景に、近年は純減傾向にあった。採用競争力の強化が、サービスの安定供給と、自社戦力減少に伴って増える外注費の抑制を図る上で必須となっていた。

減を予想。コスト削減策として、19年度の減益の一因でもある外注費を内製化により削減する。内製化に向けた採用力強化の具体策が、10月からの完全週休2日制導入だ。物量の関係で土日中心で想定しているが、平日も含むため完全土日休みと区別して、同社では「週2体制」と呼ぶ。

### 生産性の向上 と両輪で推進

生産性の向上と併せて実施する。特に集配ドライバーは勤務日数・時間の減少分を物量を多く扱うことで賄えるよう、新賃金体系を今春闘で決定し、7月から適用した。足元では、ドライバー

職の有効求人倍率が3倍から2倍に低下。同時に物流が社会インフラであるとの認識が高まっていを強化し、社員の純増、労働市場の改善も追収支構造改善、利益拡大